

2018年度

K 3-2

国 語

2月25日(日)

人文社会科学部 (経済学科)

16:25~17:15

【前期日程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(1枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、3ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙(1枚)を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 問題は、声を出して読んではいけません。
- 6 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 7 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

次の文章は、ダロン・アセモグル、ジェイムズ・A・ロビンソン著『国家はなぜ衰退するのか』(上)―権力・繁栄・貧困の起源』から一部を抜粋したものである。文章を読んで問いに答えなさい。(配点四〇%)

政治制度と経済制度は、結局のところ社会によって選ばれるものだ。それらが包括的で経済成長を促す場合もあれば、収奪的で経済成長の妨げとなることもある。国家が衰退するのは、収奪的な政治制度に支えられた収奪的な経済制度を持つときだ。収奪的な政治制度は経済成長を鈍らせ、妨害さえするからである。だが、そうだとすれば、制度の選択――すなわち制度の政治学――こそ、国家の成功と失敗の理由を理解しようとするわれわれの探究の中心課題だということになる。われわれが理解しなければならないのは、一部の社会の政治が経済成長を促す包括的制度に至る一方で、歴史上の大多数の社会における政治が、経済成長を妨げる収奪的な制度に至った、そしていまなお至る理由なのだ。

誰もが繁栄をもたらすタイプの経済制度の創出に関心を持つのは明らかだ、と思えるかもしれない。あらゆる市民、政治家、さらには強欲な独裁者さえ、自分の国をできるかぎり裕福にしたいと願うものではないだろうか？

(中略)

根本的な問題は、経済制度をめぐっては論争と対立が避けられないということだ。異なる制度は、国家の繁栄、その繁栄をどう配分するか、誰が権力を握るかについて、異なる帰結を生む。制度によって起こる経済成長は勝者と敗者をつくる。これがはつきりしたのは、現代の富裕国に見られる繁栄の礎を築いた産業革命が、イングランドで進んだ際のことだった。産業革命は、蒸気動力、輸送、繊維生産における一連の革新的な技術上の変化を中心とするものだった。機械化は総収入を著しく増加させ、最終的には現代の工業社会の土台となったにもかかわらず、多くの人から激しい反発を受けた。無知や先見の明のなさのためではない。事態はまったく逆だった。経済成長へのそうした反発は、残念ながらそれ自体の首尾一貫した論理を持っているのだ。経済成長と技術的変化には、偉大な経済学者であるヨーゼフ・シュンペーターが創造的破壊と呼んだものが伴う。それらは古いものを新しいものに置き換える。新しい分野が古い分野から資源を引き寄せる。新興企業が老舗企業から仕事を奪う。新しいテクノロジーが既存のスキルや機械を時代遅れにする。経済成長のプロセスとその土台となる包括的制度は、政治の舞台でも経済市場でも勝者とともに敗者を生み出す。創造的破壊への恐怖は往々にして、包括的な経済制度や政治制度への反発の原因となるのだ。

ヨーロッパの歴史が、創造的破壊による帰結の生々しい実例を提供してくれる。一八世紀の産業革命の直前、大半のヨーロッパ諸国の政府は貴族階級と

る人もいる。この争いの勝者が誰になるかによって、国家の経済の道筋は根本的に左右される。経済成長に反対するグループが勝てば、彼らはまんまと経済成長を阻止し、経済は停滞することになる。

〔出典〕ダロン・アセモグル、ジェイムズ・A・ロビンソン著『国家はなぜ衰退するのか』(上)―権力・繁栄・貧困の起源―鬼澤忍訳、早川書房、二〇一三年、一二五―一二九頁。ただし、難解な語句と思われるものにはふりがなを振った。〕

(注一) ラッダイトは、ラッダイト運動と呼ばれる機械破壊運動を主導した人々。ラッダイト運動は、一九世紀初頭のイギリスにおいて、機械の導入によって失業の脅威を感じた、手工業者や労働者等が起こした機械破壊運動。

(注二) 飛び杵は、ジョン・ケイが発明したローラー付きの杵。杵とは、手織りのさいに、たて糸の間によこ糸を通すのに使われる用具。

問 傍線部の「理由」を著者はどのように理解しているのか、著者の考えを四〇〇字以上五〇〇字以内(句読点を含む)で説明しなさい。